

第 14 回アジア地域土木研究所長等会議

結 論

アジア地域土木研究所長等会議は、1) 相互理解に資する情報交換、2) 技術事項に関する検討、及び3) 人的ネットワークの構築、という目的の下、国際協力機構(JICA)の協力を得て、1993年2月よりを開催してきたところである。

第 14 回アジア地域土木研究所長等会議は 2005 年 10 月 17 日から 10 月 28 日まで主につくば市と仙台市で開催された。参加者は、土木に関する調査研究及び施策立案について責任を有する政府機関の研究者及び職員であり、参加国はカンボジア、インド、韓国、ラオス、フィリピン、タイ、ベトナム及び日本であった。

第 14 回会議では「水害・土砂災害の危機管理と減災」を各国間の共通課題とした。この課題の下、参加者は相互理解の促進と新技術の把握に資する検討、新技術並びに実務に関する視察を行った。また、参加者は「第 14 回アジアにおける国土開発と土木技術に関する国際シンポジウム」に出席し、基調講演と事例紹介の後に「アジアにおける洪水、土砂災害及び津波災害」についてのパネルディスカッションを行った。

第 14 回会議の討議、視察、シンポジウムの結果、次の事項が同意された。

- 「水害・土砂災害の危機管理と減災」の役割とさらなる改善の必要性並びにそのための研究を進めることと、予測データと自然災害の情報を共有することの重要性を認識したこと。
- ハード及びソフト対策の充実及び支援のため、各国はアジア各国の識見及び経験から学ぶべきであること。
- 今後も協力し、会議を継続することの必要性を認識したこと。